

Vol. 1 6 1

TIFA会報

外国人に日本語を教えるボランティア団体

Tachikawa International Friendship Association

立川国際友好協会発行

発行責任者 小林 保
編集責任者 宇佐美浩ホームページ
<https://tifa-class.net/>

TIFA 多文化交流事業「えんがわサロン」 ～10年の交流が育む多文化の輪！次の10年へ～

TIFA 多文化交流サロン（通称：えんがわサロン）は2016年度にスタートし、10年目を迎きました。立川市市民協働課のご支援のもと、TIFA 受講生や市内外外国ルーツの方々を対象に、毎月第4金曜日に柴崎会館3Fにて開催されています。設立当初より多くの方々に支えられ、コロナ禍による活動休止期間を経て、2022年4月から活発な交流を再開しています。



サロンでは、日本の文化体験（お点前、着付け、お習字など）や、西洋のお祭り（ハロウィーン、クリスマスなど）、世界の料理をテーマにした食の交流を展開しています。季節行事として「さくらウォーク」（3月）や「持ち寄り交換会」（12月）も実施。また、「えんがわサロンスピノフ」として、大学生や柴崎学習館、地域団体と連携したイベント（布絵を描く企画、コロンビア料理を楽しむ企画、JC グリーンフェスなど）も積極的に行ってています。



長らく実行委員会で運営されてきましたが、2023年にTIFA企画専門部の下部組織となり、ボランティア有志による独自の規約作成を経て、活動基盤をより確かなものとしました。

10周年を記念し、本年11月8日、9日に昭和記念公園「世界ふれあい祭」にて、「えんがわサロン10周年記念祝ティーパーティー」と10年間の歩みを記録した展示を実施しました。9日のミニレクチャーでは、OGの塩入さんとマダガスカル出身のニライナさんによる「マダガスカル」の紹介が行われ、参加者は大いに楽しみました。



かい「縁側」として継続していくことを願っています。

【えんがわサロンに参加された外国ルーツの方々の主な国・地域】中国、台湾、インド、米国、カナダ、コロンビア、ブラジル、韓国、タイ、ベトナム、フィンランド、ペルー、ルーマニア、モンゴル、ニュージーランド、オーストラリア、フランス、ドイツ、ロシア、ガーナ、マダガスカル、英国、ネパール（全23カ国・地域）

サロン担当：赤嶺 令子



西砂教室 夏の交流会

西砂教室 矢島 淑太

8月30日（土）午後7時から約2時間、西砂学習館にて学習者・ボランティアとその家族友人あわせて約40人で「夏の交流会」が行われました。

今回初めて交流会の企画担当をさせていただきました。まだ始めて間もなく何もわからないまま不安だらけでしたが、ボランティアや受講生の皆様のご協力があり、無事イベントを終えることができたことを嬉しく思います。普段は授業という言語だけの交流ですが、食事や出し物による体験型文化交流もまた、新鮮で互いにとてもいい刺激をもらえたのではないかと思います。今回の交流会で、言語だけでは文化の理解や体験に限界があることを改めて知ることができました。

この交流会の経験を糧に、今後日本語教室を盛り上げられればいいなと思います。



木曜教室 避難訓練

10月23日、木曜教室では、いつ来るか分からぬ災害に備えるため避難訓練を行いました。ボランティア20名、受講生22名に加え、市の担当者にもご参加いただき、計43名が参加しました。今回は、地下の給湯室から出火した前提で、3階と地下のそれぞれの教室から、みんなで「火事だ！火事だ！」と周りに声を掛け合いながら、ボランティアと受講生がかたまって、学習館の駐車場へ速やかに移動できました。その後、災害時のパンフレットと非常食の梅がゆ、ビスケットが配布されました。日本で暮らす外国人にとっても、災害の認識を深める良い機会になりました。



西砂教室 防災訓練参加

12月7日(日)、西砂教室は立川市自治連合会防災訓練（西砂小学校）に子ども5人を含む14名で参加しました。大声訓練ではネパールの受講生が最も声量が大きく、景品を獲得。毛布による簡易担架搬送、



煙を避ける低姿勢移動、「キャタピラー」と呼ばれる段ボールを使った移動競争では大人も子どもも夢中で取り組みました。さらに心臓マッサージやAED、簡易トイレ作り、

消火器訓練、油圧ジャッキを用いた倒壊家屋からの救助訓練など、多彩な実践訓練を体験し、有意義な一日となりました。

世界ふれあい祭参加 2025

11月8日（土）、9日（日）昭和記念公園みどりの文化ゾーンで開催されたNPO法人たちかわ多文化共生センター主催の「世界ふれあい祭」に参加しました。



「えんがわサロン」開設10周年を記念し、テントを例年より1張り多い3張りに増設し、多くの来訪者を楽しませる準備をしました。テント1では、午前にTIFAの活動を紹介する写真や記事を展示し、午後は和太鼓演奏やマジックショーのスペースとして利用。テント2と3は、TIFAのOB、OGを含む「えんがわサロン」関係者を招き、お茶を飲みながら歓談する交流の場としました。9日には、JICA（国際協力機構）の海外協力隊員としてマダガスカル島で活躍されたTIFAのOGを招き、現地での活動をご講演いただきました。今年の綿あめは50円の有料でしたが、長い列ができる大人気となり、小さいお子さんを連れた家族に好評でした。バルーンアートも親子連れの小さなお子さんに大変喜ばれました。



土曜教室 スピーチ会

11月15日（土）柴崎学習館において恒例のスピーチ会が開催されました。



参加受講生は23名、2グループに分かれて自由課題のテーマについて熱のこもった発表が行われました。

質疑応答では発表者と聞き手とのインタラクティブなコミュニケーションの実践によって、教室全体の一体感ある交流風景が見られました。

発表の中で特に話題性のあったテーマを次に例示してみます。

「日本留学の動機：アニメなどの日本文化の経験」「印象として残る日本語の表現：敵は本能寺」「バナナで作られたケチャップ」「バングラデシュの季節は6つ」「日本が好きな理由：人間関係のちょうどよい距離感」などなど。

なお、スピーチ会に先立ち、講師によって原稿の添削や話し方の練習などの指導が行われました。これらの活動は教育の一環として、大切な役割を担っています。年々受講生の能力向上が実感できることをうれしく思います。



リレーコラム 交差点

西砂教室 山内 幹夫 日本語教師 “孤独のグルメ”



私は非常勤で日本語学校の教師をしています。授業は午前中の3時間または午後の3時間です。日本語教師のいいところは午前の授業が終わると扈からゆっくり外食出来ることです。

私は趣味という趣味はありませんが“おいしいものを食べる”ということが今の楽しみです。もちろんおいしい

いものにはお酒がつきものです。学校のある高田馬場では扈からいろいろなお店があります。とんかつ屋、うなぎ屋、定食屋、ベトナム料理、もちろん居酒屋も。翌日授業が無い時や翌日の授業が午後からの時によく行きます。まわりのサラリーマンが食事をしているときにゆっくりお酒を飲みながら食事をするというのはある種の優越感に似たものがあります。

午前中の3時間、教壇に立って集中しているので解放感も少しは手伝ってくれるでしょう。授業準備はまとめてやるようにしています。あとは授業に集中し、おいしいものに集中します。その為にも日本語教師としての気力、体力の維持、そしておいしいものが食べられるように健康への留意が必要です。最近、留学生も増え自身が希望する授業数以上に講義要請もあり、息抜きが出来ない時もあります。ワークライフバランスを大切にしながら続けていければと思います。

土曜教室 塙 桃子 TIFAでのボランティア2年経過しました

以前、長者番付に載ったお年寄りの方に、今までの人生で何が大切なと伺いますと、社会貢献と教えていただきました。また、ある講演会で、大正時代フランス人の人類学者が、世界でどの民族を絶やしてはいけないか？それは日本民族であるという答えでした。

「葉隱れ武士道」と聞き、日本民族の精神・生き方は？と心に深く残りました。

いろいろなボランティアをしてきました。孤児院、老人介護施設等、個人ボランティアで社会福祉協議会より表彰も頂きました。現在は、小・中学校の学習支援もしていますが、時代が変わり教師や子供さんの大変さ、各家庭で両親も働き、時間のない中人格形成に必要な温かさ・勇気・集中力・達成感となかなか難しいものがあると実感。何はともあれ、できなくても当たり前、自信のない子に失敗は何度でもして覚えると勇気づけ負けない心を持ってもらいたいと思いました。

TIFAでは、受講生の開拓精神を実感しています。日本に来て会社組織の難しさ、例えば日本の会社は業

務中静かですが、中国では声高に皆話しています。日本では緊張感が増す規律等、日本のゴミ収集、市内が清潔である等、嬉しい話もありますが、その一方、会社に属さない受講生たちは、銀行、病院の手続き等に困難を要し他の受講生のアドバイスが助かるそうです。

これからも日本に住みたい、そろそろ帰国される受講生は日本にまた必ず来て仕事をしたいと話されます。日本の良い所を少しわかっていていただき、国は違っても共有・理解して世界の平和になる、まさに水の一滴かもされませんが、希望を持ってTIFAボランティアを喜びで努力して参ります。



木曜教室 長塚 由美子 2025年世界陸上でボランティアをして

2025年9月に世界陸上が東京で開催されました。1991年以来34年ぶりの東京開催、2007年大阪大会以来18年ぶりの日本開催でした。



私は選手が滞在するホテルと国立競技場でボランティア活動をしました。ホテルでは、競技のために情報収集する選手の質問に答えたり、競技後にホテルに戻って、お菓子・カップ麺・菓子パンなどの配布場所に立ち寄り「これはどんなもの？」と尋ねる選手に説明したり、種々様々なお手伝いをしました。嬉しかったのは、ボツワナの選手が折り紙で鶴を折りたいと言ったので教えたところ、その選手が翌日の男子400mで金メダルを、そして最終日の4×400mリレーのアンカーで米国を抜いて金メダルを獲得したことです。自分の子供が快挙を成したような気持ちになり、狂喜乱舞しました。

また国立競技場では、男子女子400m決勝の日に競技後の選手に飲み物を渡す活動があり、競技直後の選手の姿を目の当たりにして、大きな感動を感じました。よくメディアに「今出せることは全て出し切った」と話していますが、全力を出し切った選手たちの競技直後の姿は美しく、やり切るという事の眞の意味を教えてくれたと感じました。

スポーツボランティアは日常生活では得られない感動を与えてくれると思います。

西砂教室 秋のレクリエーション

11月30日（日）受講生とボランティア講師あわせて19名で、国営昭和記念公園へ秋の散策に出かけました。

当日は天候にも恵まれ、園内の木々は美しく色づいており、絶好の紅葉日和となりました。色とりどりの落ち葉を踏みしめながらのハイキングでは、季節の移ろいを感じつつ、普段の教室では見られない受講生たちのリラックスした表情が印象的でした。

また、広場での食事や、ゲームも大いに盛り上がり、講師と受講生が自然の中で交流を深める貴重な時間となりました。今回のイベントを通して、学習者同士、そして講師とのつながりがより一層強まったように感じます。

引き続き、学びと交流の場として、楽しい活動を企画してまいります。



木曜教室 ボランティアミーティング

12月18日（木）木曜教室終了後に、3階作業室にて参加者20名による木曜教室ボランティアミーティングが行われました。

富田教室部長より教室運営、新規ボランティアの紹介、今後のスケジュールについての説明などがありました。

来年2月には日本語教育の講師をお招きしてのボランティア研修会、3月にはJRの職員の方にお越しいただき電車の利用やマナーに関する学習者向け講座も予定されています。

参加者からの質問やその他活動における報告のあと、最後に日本語教室へ寄贈いただいた本の紹介がありました。今年最後の活動となりましたが、良い2025年の締め括りとなりました。



イヤーエンドパーティ 2025年

2025年12月20日（土）、柴崎学習館地下1階ホールにおいて、恒例のイヤーエンドパーティが開催されました。



最初に小林会長から1年間の活動の振り返りと、受講生・ボランティア共に増加傾向であること、来年への期待などが述べられ、プログラムに沿って楽しい会が進んでいきました。

1. スライドショー：TIFAの1年間の行事などが紹介されました。

2. 木曜教室の出し物：立川女子高生の和太鼓演奏と受講生のスピーチがありました。

3. 土曜教室の出し物：ベトナム受講生がベトナムの歌をベトナム語で歌い、受講生のスピーチがありました。



4. 西砂教室の出し物：中国古琴の演奏と日本舞踊の演技がありました。

5. みんなで歌おう：全員で「もみじ」「故郷」を歌いました。

途中のブレイクタイムでは、お弁当とお菓子を囲み楽しい歓談のひとときを過ごしました。受講生とボランティアの距離がいっそう近づいたように思えました。

最後は全員で後片付けを行い、会場に飾りつけたシクラメンを、一鉢ずついただき帰りました。

参加者数はボランティア、受講生、その他を含め106名でした。



立川国際友好協会 西砂教室

